

3 - 12 関東・東海地域の最近の地震活動について

A Feature of Recent Seismic Activity in the Kanto-Tokai District

東京大学地震研究所 茂木清夫

Kiyoo Mogi

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

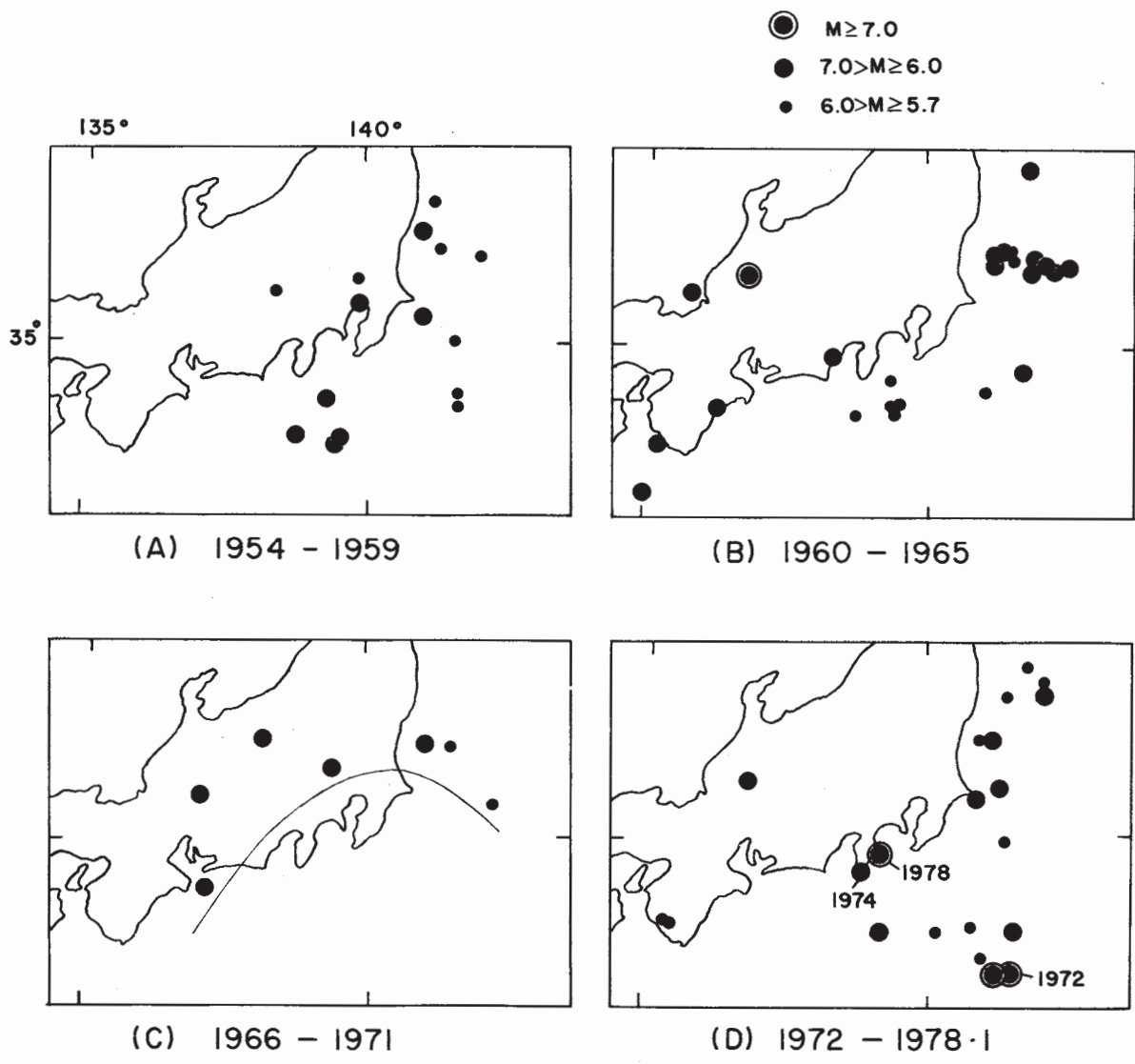
関東・東海地域の最近の活動をやや長期的にみると、1972年の八丈島東方沖地震以来急に活発化して現在に至っているように見える。しかも、注目すべきことは、この活発化の前数年間この地域は異常に静穏であったということである。関谷(1976)とOhtake(1976)は1974年の伊豆半島沖地震の前数年間その震源域を含む周辺の活動が極めて静穏であったことを指摘し、この静穏期と伊豆半島沖地震との関連に注目しているが、第1図(C)にみるように、この時期の地震活動の低下は伊豆半島という局所に限定されたものではなく、関東南部から東海地方に及ぶ広範囲なものであって、それに続くこの地域全域の活発化と関連するものではないかと思われる。

第1図(A)(B)(C)(D)は1954年以降のほぼ24年間について6年毎の浅い地震の震源分布図を示したものである。(A)(B)の両期間は特筆すべき活動の特徴が認められない、言はば定常期である。ところが(C)の期間(1966-1971)には関東南部から東海地域東部にかけての広い範囲が極めて静穏になった。この静穏期につづいて、1972年の八丈島東方沖地震、1974年の伊豆半島沖地震、1978年の伊豆大島近海地震などのM7前後の大きい地震が相ついで発生し、極めて活発な活動期(D)が続いている。

参 考 文 献

Ohtake, M : Search for Precursors of the 1974 Izu-Hanto-Oki earthquake, Japan, Pure Appl. Geophys. 114 (1976), 1083 - 1093.

関谷 溥 : 地震発生前の地震活動と地震予知, 地震2, 29 (1976), 299 - 311.



第 1 図

Fig. 1 Spatial distribution of shallow earthquakes ($M \geq 5.7$) in the central part of Japan in the successive periods (A)~(D). Activity in the southern Kanto-eastern Tokai district: stationary in (A) (B), calm in (C), active in (D).